１０月４日　「負げねど飯舘」の緊急シンポジウム（ＥＡＳと「負げねど飯舘」の共催）

アンケート結果報告　2011／10／30

ＮＰＯ法人　エコロジー・アーキスケープ

協力：日本大学糸長研究室

１０月４日に福島市内で、「負げねど飯舘」と NPO 法人ＥＡＳで共催した、緊急集会での参加者の皆さんのアンケート結果報告が、「負げねど飯舘」のホームページで掲載されています。福島市内に分散的に避難している、比較的若い世代の飯舘村民の人達の参加でした。アンケート回答者は、３７名と少ないですが、若い人達の意見が出ています。　放射能汚染状況が厳しい中で、帰村の難しさを村人達は感じています。村の除染構想とその実現性、可能性に関する厳しい見解も出てきています。

将来を見据えた、安心した暮らしの場をどう構築していくのかが問われている状況です。

ＥＡＳでは、日本大学糸長研究室と共同で、福島市内の避難所を巡り、避難者の人達との話し合いを重ねています。その意見集約に関しても、近く報告する予定です。

★以下の文書は、「負げねど飯舘」のＨＰよりコピーしています。表の一部はカットしています。詳細は、「負げねど飯舘」のＨＰをご覧下さい。

★村民集会アンケート結果

村民集会時に会場に参集してくださった方々を対象に実施したアンケート調査がまとまりましたので、ここで紹介させていただきます。

少しばかり結論を先取りすると、上の記事でも触れられていたように、「除染計画や実際の除染効果に対して極めて『懐疑的』な考えを持っている村民の割合が多い」という状況が伺えました。ただし、参加者約 160 人（登壇者やマスコミ関係者を含む）余りが参加した集会で有効サンプル数が 44 票ですから、「この結果をもって村民の意向である」とは到底言い切れるものではありません。

ですから、アンケート調査結果の扱いについては、負げねどの中でも賛否両論ありました。データ公表に慎重な意見は「あまりにサンプルが少なくデータに偏りがあるので公表すべきではない」「（データに偏りがあるので）村の方針を批判する声が多く、負げねどが役場を批判していると取れらかねない」「結果は活動の参考にすべきだが、公表についてはもっと検討すべき」などといったものです。

ただ、私たちはこう思いました。「集まっていただいた方々、アンケートに記入してくださった方々には結果を示すべきだし、結果はどうあれ得られたデータはきちんと公表すべき。そうしなければ『不都合なデータは隠蔽している』と思われてもしかたがない。だったらキチンと結果を公表しよう。」

10 月 4 日の集会では、「とにかく、村民の声を聞いてもらえる機会が必要だ」といった

主旨の発言が多かったと記憶しています。「できるだけ多くの村民の意向を聞くためにアンケートを行うことが急務だ」といった声も少なくありませんでした。

先ほどお断りしたように、今回のアンケートは統計的には有意なものではないでしょう。これからは、キチンとした形でこうしたアンケートを実施したり、地区ごとで村民どうしが自由に意見を言い合え、役場や議員と話し合いができるような場を増やしていくことも大切な取り組みだと思っています。

さて、前置きが長くなりましたが、参考までに、10 月 4 日の村民集会での会場アンケートの結果を紹介します。

Ｑ１　村民かそれ以外

	度数	パーセント
１． 村民	37	84.1
２． 県民	6	13.6
３． その他	1	2.3
合計	44	100

Ｑ２　年齢

	度数	パーセント
１． 20 代・30 代	14	31.8
２． 40 代・50 代	19	43.2
３． 60 歳以上	11	25
合計	44	100

Ｑ３　性別

	度数	パーセント
１． 男性	26	59.1
２． 女性	15	34.1
無回答	3	6.8

合計	44	100

Ｑ６　村の復興（除染）計画について

Ｑ６－１　２年で住環境の除染が完了するか

	度数	パーセント
１．可能である	0	0.0
２．可能性は高い	0	0.0
３．可能性は低い	5	11.4
４．可能性はない	33	75.0
５．わからない	5	11.4
無回答	1	2.3
合計	44	100

Ｑ６－２　２年後に帰村して生活するか

	度数	パーセント
１．生活する	0	0.0
２．できれば生活する	3	6.8
３．できれば生活したくない	2	4.5
４．生活しない	24	54.5
５．わからない	13	29.5
無回答	2	4.5
合計	44	100

Ｑ６－３　５年後に農業（家庭菜園含む）を再開するか

	度数	パーセント
１．する	0	0.0
２．できればする	4	9.1
３．できればしたくない	1	2.3
４．やらない	25	56.8
５．わからない	11	25
無回答	3	6.8
合計	44	100

Ｑ７　村民参加による除染作業に対する評価

	度数	パーセント
１．賛成	1	2.3
２．どちらかというと賛成	0	0.0
３．どちらかというと反対	5	11.4
４．反対	25	56.8
５．わからない	8	18.2
６．その他	3	6.8
無回答	2	4.5
合計	44	100

Ｑ８　除染や仮置き場などの政策決定過程に対する評価

	度数	パーセント

１．非常時なのでやむをえない	1	2.3
２．非常時の範疇を超えていて許されない	37	84.1
３．その他	3	6.8
無回答	3	6.8
合計	44	100

Ｑ９　原発事故以前の生活に戻ることの可能性

	度数	パーセント
１．可能である	0	0.0
２．可能性は高い	0	0.0
３．可能性は低い	9	20.5
４．可能性はない	25	56.8
５．わからない	7	15.9
無回答	3	6.8
合計	44	100

自由記述
Ｑ４　原発事故～避難までの自身の対応
自分の状況によって（異なる）
「２．役場の情報や指示」ですが、基本的に信頼できる人の話を伺いました
子供と妊婦の妻だけは 3/15 に避難させた
当初行政及びアドバイザーの指示を頂いて行動していたが、3/25 より自分で情報を集め行動してきた
自らの知識と判断で行動、ただし業務上制約あり
Ｑ５　避難後の自身の対応
避難はしていませんが、沢山の情報の中から自分で考えて選んでいます
自らの知識と線量計測で対応を判断
Ｑ７　村民参加による除染作業に対する評価
簡単な研修程度では被ばく対策はできない　当初（3/15～）の被ばく量を考えれば

反対
放射線防護の知識を十分に研修すべき（除染技術の研修だけでは不可）
どちらかといえば反対であるが、きちんとした対応をすればいいのではないかという思いもある
線量が低いところであれば賛成
なぜ自分がしなければいけないのか不思議である
職がなければ食べられず、職を求めれば汚染される
除染作業は安全委員、保安院、東電から人員を出すべきです
東電にやらせろ、村長がやれ

Ｑ８ 除染や仮置き場などの政策決定過程に対する評価

計画に限らず、当初から村民の意見は取り入れられない
話し合いがないのはありえない
わからない

Ｑ１０ 村民アンケート調査に対する要望

【帰村／移住について】

帰村は、各世帯の世帯員の中でも意見が分かれると思うが、全体的な％で示せるような項目として聞き、村長と違う意見もあることをメディアに露出してほしい
除染後、子供も戻しますか？
戻れるか、戻れないかを
移住について
移住の希望をとること
村の移住の賛否を取って欲しい（村全体）　除染後村民が戻るか、他市町村のどこかに移住するか

【生活や家計のことなど】

今現在（避難先）の生活で不便なこと、困っていること　村（行政）への希望　村民の想いや村民の声が聴ける内容
仕事や、家計の状況など
今知りたいことベスト 10 くらい

【村の将来像など】

村民が求める「復興」とはどんなかたちか？（帰村、生活の安定、新たな生活 etc）
何が村民にとっての幸せの形なのか？ どんな状態になったら村に戻るか？

【土地の買い取り】

住民の希望、東電・国による土地の買い取り

【その他】

先の話はいいが、生活していくためのもっとも速い計画を実行できるようにしてほしい

村長は人を殺す気か　村民の健康はどう考えているのか
除染の是非は住民投票で
議会はなにをしているのか 3/11 から何も見えない
村長（菅野典）がいるかいらないか？リコールすべき
今後について本当のことを聞かせてほしい
ない　するだけむだ
Ｑ１１ 村（村長、役場）に取り組んで欲しいこと
【村民意見聴取の徹底】
村の方々の意見を聞く活動（公開で話し合う）
村民の思いをもっとわかって欲しい
情報の開示、意見の集約
村民の声を聴いてください
村民同士が集える場所、機会をもっと作ってほしい
意見を聞け　自分で決めるな　本を書き出版している暇はない　テレビに出ず村民の前に話を聞きにまわれ
一人一人の話を聞いて一人一人の対応をしてほしい　帰る人帰らない人、などすべての人に平等に予算の分配をしてほしい　村長は今すぐやめてほしい　村長を何とかすべき　辞めさせるべき
さまざまな意見、要望があると思います　それぞれの想いがあります　極力みなさんの希望がかなうよう、選択肢を沢山もうけてほしいと思います　あくまで決めるのは村民だと思います
住民の声にもっと耳を傾けてほしい　断片的な意見ばかりでなく、１人１人の声をきめこまやかに対応して頂きたい　村と住民との意見交換会は必ず行わなければならない
きちんと村民の意見を聞いてから行動してほしい　避難についてのアンケート（要望など）を記入してもらうと村長は発言していたが、そのアンケートは全くしていない　あの広大な土地の除染を短期にするのは無理　今は現在の生活を安定させるべき
村民集会
村民の意見を聞け
村のコミュニティをもっと取り入れてほしい
【情報の公開】
村民を無視した取り組みをしないこと　情報の隠ぺいをしないこと　村民を平等に扱うこと
情報は隠さず流してほしい　現実はかなり厳しい　除染計画はかなり危険　、ましてきちんとした除染の仕方をしなかったら後々の健康被害が出たときのこと、対策

を考えているのか
情報の伝達をもっとしてください
【村の移転・移住／帰村を望まない人への対応など】
戻ることばかりでなく、見切りをつけて他で生活を始めたい人への支援をしてほしい
移住や新しい土地に行けるように考えてほしい
村全体で住める場所さがし
除染をすれば戻れるような話をやめてほしい　不可能なら不可能で、新しい村を作る事を進めるべきでは？
村全体をどこかに移転を考えたが村民は安心して暮らせると思う
糸長先生の案に取り組むこと
【村民のくらし・生活保障】
補償問題　これからの生活する場所
保障を最優先して取り組むこと　代替地を用意して村民全体で移住すること　除染作業は無理なので税金の無駄遣いだ
家・土地の国、東電への買い上げに向けてなるべく早く取り組んでほしい（希望者から優先して）
東電との交渉、除染計画の是非
【村民の健康対策】
子供を村に縛り付けないでほしい
村民の健康をもっと考えてほしい
村に帰村するとしても誰もが（村民も）安全安心だとならない限り戻ることは不安です
【その他】
除染してすぐ生活基盤を作れるのか？除染してすぐ収入を得ていける計画が自分で作っていけるのか？
妙な専門家は首　住民投票の実施
住民と行政の融和
ない　期待していない
Ｑ１２ その他自由記述
【（子どもの）健康について】
村民の命を最優先に考えるべき（特に子供、若い人の命）　線量など大切な情報は隠さず公表すべき　村民の要望はきちんと聞きいれ早急に対応すべき
子供にガラスバッチを着けさせてほしい
実効性が証明されていない技術は当てにできない　まず完全な避難実施が先決リスクが回避最低 15 年　国あるいは東電で所得不動産の買い取り　新飯舘村の建

設（希望者）
まず、「子供を守ってください」と思います。今避難されている福島市も決して安全ではないと思います。どの市町村も子供を守ろうとしないように感じてなりません。まず子供に対して対策を立ててから次に進むべきだと思います。そうしないと何をやっても安心は得られないと、母親としては思います。ふるさと（飯舘村）へ帰るのは子供の為ではないのですか？どうして行政は除染、復興のことしか言わないんでしょうね。子育て中の母としてはすごく違和感を持っています。もう行政をあてにしている場合ではないと思います。

【除染の実現性への疑問、その代替策など】

私は移住者です。夢希望をもってこの村に来ました。子供、孫たちは２度と遊びに来ることはないと言っています。除染計画も大変重要ですが、飯舘の汚染は特別です。もとに戻すことはできません。つらいですけど、現実を受け入れ、新しい生活に向けて出発することを村・村民は決断してほしい。村長は安易な期待は持たせないで、国・東電と交渉してほしい。（早急な土地、家の買い上げ）私たちはもう若くないです。飯舘村にはもう子供は帰れない、帰らないでしょう。村は子供がいない若い人がいない、いずれは廃村になる運命です。放射性物質のゴミの捨て場がどこにもありません。飯舘は受け入れる運命です。国にとっても一石二鳥です。3200億の除染計画予算は全く無駄になると思う。金は有効に使ってほしい。

除染に無駄な金を使わない方が良いと思う　今の予算よりオーバーすると思うので・・だったら移住した方が予算が出なくて済むと思う

常識的に考えて、村には多種、大量な放射性物質が降下したはず。しかし今やセシウムのみに焦点を合わせたかのようである。測定と対策が取られている。一方で市内では県補助金 50 万円で民間除染が行われている。しかもガイドラインのみで側溝の中の汚泥の堀上までさせている。人が触れない、住まない、蓋付き遮蔽効果ありの場所までなぜ？ 9/30 には、村でストロンチウム、プルトニウムが見つかったとの報道。すべて後出しで、当初の状況を隠し続けている。村（村長）はいまだに「悪い」情報を出さないように国に言っていると聞いている。国は確信犯、県は国の模倣犯、村は…無知を装った政治犯。村への繋ぎ止めに躍起になっている村・県は異常かつ滑稽。村を誰に乗っ取らせる気か？ 国は核種ごとの詳細な計測値を発表すべき。（汚染マップを作るべき）　村は住民の意をはからうべき。県は国に加担した罪を「猛省し」至急、村民生活の為の支持を県自身が行うべき。

【村長のリーダーシップに対する意見】

村長をよぼう　話を聞こう　意見を言おう　リコールしよう　次回開催を待っています

村長はやめるべき　やめろ　私は 100%村に戻る気はない

飯舘村村長は露出が多く、村のことをとても考えて一生懸命だと思っていたのです

が、「ふたを開けて」みないと分からないのですね。村民の皆様の苦悩をよく知らず申し訳ありませんでした。私は福島市に住んでいますが、どこの住民も正しい情報がなかなか得にくい状況でまるで戦争中の情報操作の中にいるのだと思います。でも飯舘村の皆さんは、こうして集会を開き声を上げ、自分たちのことを自分たちで何とかしようと動いていてすごいと思います。健康手帳など具体的に動いていて素晴らしいです。でも、こういうことは全て国がやるべきことです。国も県も市も対応が遅すぎ、信頼できるものではありません。口々に文句を言っても何もかわりません。住民一人一人が声を上げ、地域同士でつながり、全責任は原発なんだということを全国に伝えて国を動かすべきだと思います。うまく伝えられなくて、もうしわけありません。

【その他】

伊達市では毎週広報を出し、線量や野菜などのベクレルを「不検出」という書き方でなく、しっかり数字を出しています。飯舘でももっと住民にどんどん情報を知らせてほしい。村からのお知らせをするための集会を開くのもいいのでは？ 以前のコミュニティは壊れたといいますが、借り上げにいて元の区長から連絡がくることもありあせんし、村から発表してくるとも思えません。第２の飯舘村に期待します。